

授業作り	重 点	前時のふりかえりや学習したことをもとに解決の見通しや自分の考えをもたせ、学び合いを通して思考力・判断力・表現力を育てる問題解決型の授業づくりを行う。
環境作り		校内で共通した授業内掲示物を使い、言語や規則を守る環境を整え、タブレット端末を中心としたICT機器を活用することで授業の流れを視覚的に分かりやすく提示したり、児童が実物を映像で確認したりしながら学べるようにする。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年	/	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整えること、学習習慣を身に付けることを最優先にする。 ・学習したことが次時の学習や他の教科、活動にもつながっていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童の思いに寄り添った導入、授業展開、つながりを意識した振り返り ② 家庭学習の内容の精選と、習慣化
2 学 年	/	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動をもとに、友達との考えから共通点や良いところを見付けて取り入れられるようにする。 ・基礎計算力を高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 話し合い時間の確保と、話し合いで活用する言葉の提示 ② たし算やひき算の筆算など、繰り上がりや繰り下がりのある計算の重点的な指導
3 学 年	<p>・新宿区学力調査の結果では、国語における基礎・活用ともに全国平均を上回っている一方で、漢字を書く問題では全国平均を下回っている。また、算数では、全国平均を下回っており、特に長さやかさの問題で正答率が70%を切っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を短期的に覚えるのではなく、長期的に活用できるようにする必要がある。 ・目盛りを正しく読み取ったり、正確に直線を引いたりすることなど、単位関係についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 書字機会の確保と漢字使用の徹底 ② ノート指導の徹底による直線を引くことの習慣化 ③ 百ます計算の反復練習による計算力の向上
4 学 年	<p>・新宿区学力調査の結果では、漢字の書き取りが全国平均を上回っている。一方、対義語の問題は平均を下回っている。また算数では、四則計算の立式や基礎的な計算領域については全国平均を上回っている。一方、作図や立体の頂点の数などへの理解は平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に辞書を引く活動などを通して、語彙力を高めていく。 ・具体物を用いた丁寧な指導を行い、条件をもとに作図することへの理解や、立体の構成への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 熟語や文の中での漢字活用の意識化による語彙力の向上 ② 具体物の提示による立体の理解と作図指導の徹底 ③ デジタルドリルの活用による基礎的な計算力の向上

5 学 年	<p>・新宿区学力定着度調査の結果では、全体の平均回答率80%を超え、区平均・全国平均を上回っていた。文章問題については友達と話し合う時間を設けたため、図や式から答えを求める力を身に付けさせることができた。</p> <p>・グラフの数値を正確に読み取る力が課題となっているため、丁寧に指導をする必要がある。</p>	<p>・問われている内容をしっかりと理解し、記述する力を身に付けさせる必要がある。</p> <p>・50字、200字と必要な文字数で書くことを苦手としており、習熟の必要性がある。</p> <p>・習熟の時間に繰り返し問題を解き、苦手となる前に、問題を解けるようにする必要がある。</p> <p>・様々な教科でグラフや表などの資料が出てきたときに、読み取り方を丁寧に指導する必要がある。</p> <p>・今後は位数が増えても正確に計算できるように指導する必要がある。</p>	<p>① ICT活用等による課題提示の視覚化による問題内容の理解</p> <p>② 授業内での各時間の確保による文章で表現することの意識化と習慣化</p> <p>③ ICTの効果的活用によるグラフの読み取り学習の継続的指導</p>
6 学 年	<p>・新宿区学力定着度調査の結果では、国語は全国の平均正答率を2.8%上回っているものの、区平均正答率では3.3%下回っていた。一方で「話す・聞く」の領域の設問においては、全国・区平均正答率を大きく下回る結果となっている。</p> <p>・漢字の読み書き等の知識技能については、身に付いている。算数では、全国の平均正答率を4.5%上回っているもののどの領域においても、基礎的な設問の正答率は区平均を下回っていた。</p>	<p>・「話す・聞く」においては、筋道を付けて話す力や、話の中心を捉えて聞く力を身に付けていく。</p> <p>・「話す場面」「聞く場面」「書く場面」と学習活動場面を明確にしていくことで、伝え合いの質を上げていく。</p> <p>・毎日の授業での基礎基本の指導を丁寧に行い、定着を図る。また、習熟度別学習を活用して、個別最適な学びを展開し、着実に力を付ける。</p>	<p>① 話す時の話型の指導、伝え合う内容の焦点化、伝え合う目的意識を明確にした指導</p> <p>② 習熟度別練習問題コーナーの設置、デジタルドリルの活用による反復練習による計算力の向上</p>
特 別 支 援			